

各 位

平成 22 年 10 月 27 日
会 社 名 株式会社コロワイド
代表者名 代表取締役 蔵人金男
(コード番号 7616 東証第一部)
(連絡先電話番号：045-274-5970)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 4 月 30 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

業績予想の修正について

1. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想数値の修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	53,242	1,577	1,068	△313	△5.18
今回修正予想 (B)	50,198	1,203	718	△808	△11.78
増減額 (B-A)	△3,044	△374	△350	△495	—
増減率 (%)	△5.7%	△23.7%	△32.8%	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	52,727	1,253	532	△990	△17.98

尚、平成 22 年 4 月 30 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期通期業績予想につきましては、現時点で修正はありませんが、今後の業績の推移等を慎重に検討した上で、修正が必要な場合には改めて公表いたします。

2. 修正の理由

当第 2 四半期連結累計期間の業績につきましては、雇用・所得情勢の不透明感によるデフレ環境が続いており、低価格競争の熾烈化により尚一層厳しい事業環境が続いております。

このような状況の中、当社グループでは積極的に新規出店を計画すると共に既存店の売上拡大対策を業態ごとに実施することで、グループ成長力の強化を現在図っております。

熾烈な低価格競争が展開されている居酒屋業態においては、新規出店及び来店頻度増加対策により来店客数の減少に歯止めがかかってきたものの、客単価低迷の傾向は依然として根強く、売上高の回復には至っておりません。しかしながら、郊外型レストラン業態においては、今夏の記録的猛暑などの外的要因はあるものの、テレビCMによるブランドイメージの定着化策や焼肉業態における食べ放題メニューの訴求、すし業態でのテイクアウト強化など業態毎の既存店売上拡大対策が功を奏し、グループ全体の売上高回復に貢献してきております。

コスト面につきましては、従来からの取り組みである食材アイテム数の絞込みと内製品比率の向上に加え、店舗配送便の物流改善が原価率の低減に貢献しております。人件費では店舗のワークスケジュールを電子化することで管理の強化・効率化を図るなど更なるコスト低減に取り組んでおります。また、販売促進費を中心とした販管費の効率を高める取り組みを継続的に実施し、営業利益率の向上を図っております。

しかしながら、最近の事業環境を踏まえた出店基準の厳格化の影響もあり、新規出店数が第2四半期連結会計期間末時点で48店舗の計画に対し25店舗と遅れていること及び消費者の低価格志向・節約志向による客単価の低迷や低価格業態との競合などの影響を受け、既存店売上高の減少により、第2四半期連結累計期間の連結売上高は当初計画を下回る見込みとなりました。

尚、通期の連結売上高につきましては、遅れていた新規出店が10月以降順次オープンしていくこと及び連結子会社の(株)バンノウ水産の販売が第3四半期連結会計期間以降好調なことが予想されることにより、当初計画は変更いたしておりません。

また、売上高減少を主要因として、第2四半期連結累計期間の利益につきましても当初計画を下回る見込みとなりました。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上